

# 育むために、いま、大人ができることは

## 一人一人に向かい合う ～「君たちのいいところを知っているよ!」～

プラン策定の話し合いにおける基本的な考え方の一つは、子どもを先入観で決めつけないで、一人一人を多面的に、肯定的に理解しようということでした。大多数の子どもたちは一生懸命に学び、それぞれにスポーツや趣味に励んでいるのです。今回の事故の発生で傷ついている子どもたちに「君たちのいいところを知っているよ!」という働きかけをしよう、子どもとのかかわりを今まで以上に広げていこうという気持ちで、話し合いを通して大人たちの中に生まれました。子どもとの出会いを、注意から始めるのではなくあいさつから始めよう、繰り返し地域の子どもたちに声をかけ、目をかければ、必ず返事が返ってくる!そんな声もあがりました。

## 学校・家庭・地域・行政の連携へ ～「土曜講座」の実施～

もともと東村山市には、市内に7つある中学校区ごとに青少年対策地区委員会があり、地域の大人たちが手をつなぎ子どもたちを育てる取り組みがなされていました。ある地域では、事件の前から「行政や学校任せでなく、商店街や町内会など町中を巻き込んで、地域で子どもを育て、守りたい。」という声があがっていました。そうした取り組みの中ですでに計画が進んでいた「土曜講座」が、事件からほぼ1年が経とうとする10月に、市内の小中学校・全22校で始まりました。

各学校では地域の大人が中心となり実行委員会を組織し、独自の企画を実施しています。スポーツ、教科に関する学習、料理、囲碁将棋など多彩なプログラムで1年間に10～20講座が開催されています。講座では地域の大人がボランティアで指導します。若干の経費の支給はありますが謝礼などはありません。実施の際は学校も全面的に協力します。



土曜講座(囲碁教室) 久米川東小学校

中学生が地域でボランティア活動を始める例などが増えていると言います。「土曜講座」は、子どもたちが学校以外でも活躍できる場所であり、学校や家以外で認められる場所なのです。それは子どもたちの「こころの居場所」とも言えるのではないのでしょうか。

講座数は、平成15年度に入り増えました。親子で参加できる講座もあり、親子のふれあいの場にもなっています。何よりも、かかわる大人たちがイキイキとしはじめ、楽しんでいるという報告がたくさん届きます。学校で開催される「土曜講座」が、大人同士がつながる場になり、地域のコミュニティになりつつあるのです。事件で大きなショックを受けた大人たちは、事件をバネに、大人同士のつながりをより強くしたのです。



土曜図書室(読み聞かせ)

## 大人の生き方をもって示したい 「いのちの尊厳」

子どもに自分の存在の大切さと、同時に他人の存在の大切さ、人権の重みを伝えることに、特効薬などありません。大人一人一人ができることから行動していくことが大切なのだ、東村山市の取り組みは教えてくれます。

策定協議会では、子どもの世界は大人社会の縮図であると認識し直しました。大人の道徳性、規範意識の低下が子どもたちに影響するのです。社会における規範意識やルールを守る態度も、逆に人間関係を暴力で解決することも、子どもたちは大人から学んでいます。また、家庭では「温かさ」と甘やかしの違い、「厳しさ」と親の身勝手の違いも、問題になります。

大人たちが一生懸命な姿を見せること、大人の人権尊重意識が高まる必要があるのです。「人権を大切に」と言いながら、一方で大人社会にも「いじめ」や「暴力」「排除」が存在するという大人社会の矛盾を子どもたちは見ているのです。

子どもたちに伝えるには遠回りなやり方かもしれませんが、しかし、東村山市の大人たちは、取り組み始めています。地域でも学校でも家庭でも。